

第25回

小さな展覧会

2009

平成20年度京都府内遺跡発掘調査成果速報

企画展示 乙訓地域の縄文集落
木津川市馬場南遺跡と周辺遺跡



(財) 京都府埋蔵文化財調査研究センター

展覧会開催にあたって

当調査研究センターでは、平成20年度に22件の発掘調査を実施しました。その中でも特に注目された調査12件を取り上げ、京都府内の各関係機関の発掘調査成果23件を合わせて、速報展示するものです。

この展覧会の目的は、前年度に京都府内で行われた発掘調査の成果を出土遺物や写真などによって紹介し、合わせて一般の方々に埋蔵文化財への理解を深めていただくことにありますが、そのためにも、よりわかりやすく、親しみやすい展示を心がけたつもりです。

第25回の展覧会では、二つの小企画展示を設けております。一つは、昨年度に万葉歌木簡が出土して注目を集めた馬場南遺跡の出土品を中心に、「木津川市馬場南遺跡とその周辺遺跡」と題して展示しております。もう一つは、近年、調査例が増加し、注目を浴びている乙訓地域の縄文集落の展示であります。

今回の展覧会に後援をいただいた京都府教育委員会をはじめ、協賛をいただいた向日市文化資料館、いろいろとご協力を賜った各関係機関に対し、深く感謝します。

2009年8月

財団法人 京都府埋蔵文化財調査研究センター

理事長 上田正昭



1. 銚子山古墳
2. 滝谷古墳群
3. 温江遺跡
4. 向野古墳群
5. 戸田遺跡
6. 久田山古墳群
7. 新庄遺跡
8. 室橋遺跡
9. 蔵垣内遺跡
10. 長岡京跡
宮内466次
11. 長岡京跡
左京第525次
・石田遺跡

12. 上里遺跡
13. 井ノ内遺跡
14. 神足遺跡
15. 南栗ヶ塚遺跡
16. 馬場遺跡
17. 雲宮遺跡
18. 開田城ノ内遺跡
19. 下海印寺遺跡
20. 伊賀寺遺跡
21. 友岡遺跡
22. 長岡京跡右京第946次

23. 松田遺跡
24. 大山崎瓦窯跡
25. 女郎花遺跡
26. 芝ヶ原9号墳
27. 山道東古墳
28. 鞍岡山2号墳
29. 恭仁宮跡
30. 高麗寺跡
31. 馬場南遺跡
32. 木津城山遺跡
33. 木津城跡

凡例

1. 本図録は平成21年8月14日～8月30日の第25回「小さな展覧会～平成20年度京都府内遺跡発掘調査成果速報～」の展示図録である。
2. 展示資料は、(財)京都府埋蔵文化財調査研究センターおよび各機関が主として平成20年度に発掘調査および整理作業を行った遺跡・遺物を対象とした。なお、展示資料中、都合により員数等が異なる場合がある。また、紙面の都合上、本冊子内で上掲33か所の遺跡のすべてを説明してはいない。
3. 展覧会期間中の8月15日(土)に第114回埋蔵文化財セミナーを開催する。
4. 資料調査・図録作成・展示資料借用に当たっては次の機関から御指導・御協力を受けた。
(順不同・敬称略) 京都府教育委員会・京丹後市教育委員会・与謝野町教育委員会・福知山市教育委員会・綾部市教育委員会・(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館・向日市教育委員会・(財)向日市埋蔵文化財センター・長岡京市教育委員会・(財)長岡京市埋蔵文化財センター・八幡市教育委員会・城陽市教育委員会・木津川市教育委員会
5. 本図録は、京都府立山城郷土資料館の御協力を得て作成した。

表紙について：表紙は温江遺跡出土の弥生時代前期の人面付き土器を元にデザインしました。

企画展示：乙訓地域の縄文集落

この数年、乙訓地域では縄文集落跡の調査例が増加しています。2006・2007年の上里遺跡^{かみさと}の調査では、縄文時代晩期の住居跡と墓が隣接して見つかり、集落構造がわかる例として注目を集めました。

平成20年度は、小泉川流域での縄文集落の調査がなされました。当調査研究センターが実施している第二外環状道路関係遺跡^{いがじともおか}の調査では、伊賀寺遺跡・友岡遺跡で、中期・後期の集落跡が見つかりました。死亡直後に火葬された墓は、全国的に見ても重要な成果でした。また、多数の竪穴式住居跡や遺物が出土し、京都府西南部の中心的な集落であったことがわかりました。また、長岡京市埋蔵文化財センターが調査した下海印寺遺跡^{しもかいいんじ}では後期の集落が確認されました。

小泉川流域からは少しはずれますが、南栗ヶ塚遺跡^{みなみくりがつか}では、縄文時代前期の竪穴式住居跡などが見つかりました。

乙訓地域の小河川の川筋に沿って、縄文人が時代ごとに移り住んでいる状況がわかってきました。その中でも小泉川流域は、他地域との交流を進めたという点で、中心的な集団が安定的に住んでいたようです。



乙訓地域の主要な縄文遺跡



近年、小泉川流域では縄文集落の調査が数多くなされています（写真は伊賀寺遺跡の調査地から北を望む）

いがし
【伊賀寺遺跡】

長岡京市下海印寺下内田

長岡京跡右京第 927 次調査 当調査研究センター調査

伊賀寺遺跡では、小泉川に近い位置には中期の集落が、やや離れた東側では後期の集落が見つっています。右京第 927 次調査は中期の竪穴式住居跡 4 基や土坑を検出しました。一辺 1 m の石囲い炉を持つ竪穴式住居跡は、集会など非日常的な住居であったと考えられます。この北側では遺構を確認しませんでしたので、集落の北端に位置しているものと思われる。



一辺 1 m の石囲い炉を持つ竪穴式住居跡（中期末葉）

長岡京跡右京第 941 次調査 当調査研究センター調査

この調査では、後期の竪穴式住居跡 7 基を検出しました。石鏃や石斧、石器を作ったときの石屑が大量に出土していることや、複数の竪穴式住居跡が重複していることから、長期間にわたって集落が営まれたものと推定されます。南東側に隣接した長岡京跡右京第 943 次調査では、同時期の墓域を調査しています。この調査地は集落の中でもやや高台に位置しており、縄文時代後期の伊賀寺集落の中心地に位置しているものと考えられます。



後期の竪穴式住居跡が重なり合って見つかりました

長岡京跡右京第 943 次調査 当調査研究センター調査

中期の竪穴式住居跡 1 基、後期の竪穴式住居跡 3 基以上、土壙墓 17 基、火葬墓 2 基などを検出しました。1 基の火葬墓では、骨の鑑定から 10 人以上が葬られていること、骨の状態から死亡直後に火葬されていることがわかりました。他の 1 基では、骨や焼土の分布から 5 体以上が葬られたと推定されています。縄文時代の火葬については、一旦土葬をした後に古くなった骨を焼いたと考えられていますが、その認識を改めるべき事例となりました。



後期の火葬墓が 2 基検出されました

主な展示品

伊賀寺遺跡は東西 600m、南北 350m と広大な遺跡ですが、南東部分に縄文集落が分布しています。石冠は、伊賀寺遺跡と重複した地点の友岡遺跡内から出土しました。



縄文土器（伊賀寺遺跡右京第 927 次）
中期末葉（約 4500 年前）



縄文土器（伊賀寺遺跡右京第 943 次）
中期末葉・後期後葉（約 4500・3500 年前）



石冠（友岡遺跡）
後期後葉（約 3500 年前）

【南栗ヶ塚遺跡・右京第 955 次】 長岡京市久貝二丁目

(財)長岡京市埋蔵文化財センター調査

この調査では、前期の竪穴式住居跡と遺物を多量に出土する窪地を調査しました。多量の土器とともに、石鎌すりいしや磨石たたくいし・敲石いしきじ、石匙いしきり、石錐せきふ、石斧せきすい、かるいし軽石などが出土しました。今までにこの周辺で数多くの調査がなされていましたが、縄文集落が確認できたのは今回が初めてです。これらの遺構・遺物から、南栗ヶ塚遺跡は縄文時代前期の桂川右岸を代表する遺跡であることが判明しました。



残りの良い竪穴式住居跡が見つかりました (前期)

【下海印寺遺跡・右京第 962 次】 長岡京市下海印寺方丸

(財)長岡京市埋蔵文化財センター調査

下海印寺遺跡では、今までに後期の集石遺構や配石遺構が調査されています。右京第 962 次調査では、後期の柱穴群、土器埋設遺構などを検出しました。柱穴は直径約 50cm、深さ 50cm 前後あり、非常に残りの良いものです。これらの柱穴が竪穴式住居となるのか、平地式住居となるのか決め手に欠けますが、居住関係の遺構が確認できたことは、大きな成果と言えます。



土器を埋設した遺構が見つかりました (後期)

【石田遺跡・左京第 525 次】 向日市鶏冠井町十相

(財)向日市埋蔵文化財センター調査

この調査では縄文時代後期の大型の土坑 2 基を検出しました。土坑の一部しか調査していませんが、幅約 4 m 前後、長さ約 1 m、深さ 0.4 ~ 0.5 m を測ります。内部から縄文土器片が多数出土したこと、調査トレンチ外に広がることやその形状・規模から、竪穴式住居跡である可能性があります。石田遺跡周辺に広がる縄文時代後期・晩期の集落を考える上で重要な成果を得ました。



土坑の中からは縄文土器が出土しました (後期)

主な展示品

縄文時代後期から晩期にかけての土器は、装飾が前の時代よりも少なくなります。また、器の表面に施された縄の模様自体もなくなってきます。



縄文土器 (南栗ヶ塚遺跡)
前期 (約 6000 年前)



縄文土器 (下海印寺遺跡)
後期 (約 3500 年前)



縄文土器 (石田遺跡)
後期 (約 3500 年前)

弥生時代の遺跡調査

【温江遺跡】

与謝郡与謝野町加悦^{かえ}地内

当調査研究センター調査

温江遺跡の調査では、弥生時代前期の大溝2条（幅約2m、深さ約1.2m）が約100m隔たって、平行に掘られているのが見つかりました。大溝と大溝の間には同時期のピットや土坑がありますので、集落の周りに大溝が巡っていたと思われます。西側の大溝からは、多くの土器の破片に混じって、人面付き土器が出土しました。



大きな溝が集落を取り囲んでいました

【神足遺跡】

長岡京市東神足二丁目

(財)長岡京市埋蔵文化財センター調査

神足遺跡は、弥生時代中期における乙訓地域の中心的な集落跡で、数多くの竪穴式住居跡や方形周溝墓^{ほうけいしゅうこうぼ}などが調査されています。このムラでは石器や玉を作るための原石やそれを作った際の石屑、製作途中のもの、石器などを作るための道具などが出土しています。玉や石器の材料は、この近くで産出しないので、広範囲に物のやりとりをしていたことが窺えます。



玉作り関連遺物が出土した地点の竪穴式住居跡群

【木津城山遺跡】

木津川市大字木津小字片山

当調査研究センター調査

標高100mの山の上に営まれた集落跡です。A地区では、竪穴式住居跡6基、土坑1基、段状遺構3基と、これらを囲む大溝1条を検出しました。大溝の外側には遺構・遺物がないので、集落の境界を示すための溝のようです。B地区では、台状墓3基と埋葬施設14基を検出しました。この時期には珍しく、2基の埋葬施設に、中国製鏡片と鉄鏃が副葬されていました。



山の上を方形に削って台状墓が造られていました

主な展示品

人面付き土器の“人面”は土器に付けられた装飾と考えられますが、どのように飾ったのか、わかりません。銅鐸形土製品は土坑から出土したもので、中に舌が入っていました。



人面付き土器（与謝野町温江遺跡）
弥生時代前期（約2300年前）



銅鐸形土製品（長岡京市右京第946次）
弥生時代中期（約2100年前）



弥生土器（木津川市木津城山遺跡）
弥生時代後期（約1900年前）

古墳時代の遺跡調査

【国史跡銚子山古墳】

ちょうしやま

京丹後市網野町網野宮家

京丹後市教育委員会調査

日本海側最大の全長 198 m の大型前方後円墳です。古墳の範囲を確認するために、墳丘にトレンチを入れたところ、埴輪列や葺石が出土しました。墳丘の海岸側には周濠がなく、海浜部から墳丘をくっきり際立たせる様に造られていました。また、銚子山古墳の陪塚である小銚子古墳は、銚子山古墳と同じ丘陵を切り離して造られていることもわかりました。



埴輪が立てられた場所で破片がまとまって出土しました

【鞍岡山2号墳】

くらおかやま

相楽郡精華町下狛

当調査研究センター調査

鞍岡山2号墳は直径約 27 m、高さ約 4 m の古墳で、調査の結果、7.4 m × 2.8 ~ 3.5 m、深さ約 1.2 m の墓壙の中に、木棺を納める筋状の穴が2つ見つかりました。割竹形木棺を据えた痕跡で、西棺は盗掘を受けており、わずかに棺外から鉄製武器5点が出土しただけでした。東棺は未盗掘で、棺内から小型仿製鏡と玉類約 20 点、棺外から玉類約 160 点が出土しました。



墓壙内に安置された2基の割竹形木棺

【久田山古墳群】

きゅうたやま

綾部市里町・下八田町・味方町

綾部市教育委員会調査

久田山古墳群はおよそ 100 基の古墳からなりますが、このうち、後期の古墳 30 基を調査しました。古墳の埋葬施設は横穴式石室が 27 基、木棺直葬が 3 基でした。副葬された土器や鉄器、装身具は豊富です。この古墳群は綾部の中心街を見下ろす丘陵に位置していることから、現在の綾部の基礎を作った氏族の墓域と考えられます。



未盗掘の石室もありました(久田山B2号墳)

主な展示品

陶質土器とは朝鮮半島で焼かれた硬質の土器のことです。山道東古墳は地中に埋まっていた古墳で、埴輪列の並びから、直径約 27m の円墳に復原できます。



陶質土器(城陽市芝ヶ原9号墳)
古墳時代中期(約1600年前)



円筒埴輪(城陽市山道東古墳)
古墳時代中期(約1550年前)



須恵器器台(綾部市久田山B2号墳)
古墳時代後期(約1450年前)

飛鳥～平安時代の遺跡調査

【国史跡恭仁宮跡】

くにきゅう

木津川市加茂町例幣

京都府教育委員会調査

大極殿地区と朝堂院地区で調査を実施しました。大極殿地区では大極殿後殿に関わる礎石抜き取り穴、朝堂院地区では朝堂建物に関わる柱列を確認しました。特に朝堂建物は、径1.5～2mの柱穴6基が3m間隔で東西に並ぶことから、東西棟になる可能性が高く、今後、恭仁宮朝堂院の構造を検討する上で、重要な発見となりました。



朝堂院地区で検出した朝堂建物の柱列



南一条大路南側溝がまっすぐに掘られています

【鹿背山瓦窯】

かせやま

木津川市大字鹿背山小字須原

当調査研究センター調査

瓦窯の背後にある丘陵上で、通路状遺構、粘土採掘跡、掘立柱建物跡が見つかりました。通路跡の底面には細かな砂利が敷き詰められ、一輪車の轍わだちがついていました。粘土や製品を運搬する通路跡と判断されます。掘立柱建物跡は、瓦を製作した工房跡と考えられます。窯跡を中心に、各施設が機能的に配置されている状況がわかりました。

【長岡京跡左京第525次調査】

向日市鶏冠井町十相

(財)向日市埋蔵文化財センター調査

長岡宮の東側で調査を行い、一条大路南側溝を約37mにわたって検出しました。側溝の規模は、幅約2.6～3.2m、深さ0.5～0.6mで、真東西にまっすぐに掘られていました。また、東二坊坊間東小路との交差点も確認し、大路の側溝が小路の路面を横切っていることがわかりました。一条大路南側溝からは、多量の土師器や須恵器が出土しました。



窯跡の背後では瓦を運搬した通路が見つかりました

主な展示品

鹿背山瓦窯では、窯跡の背後の丘陵から、須恵器や土師器の日常雑器が出土しました。長岡京跡一条大路の側溝からは、人面を描いた甕が出土しました。



軒丸瓦 (木津川市高麗寺跡)
飛鳥時代 (約1300年前)



須恵器 (木津川市鹿背山瓦窯)
奈良時代 (約1250年前)



土師器と須恵器 (向日市左京第525次)
長岡京期 (約1220年前)

中世～近世の遺跡調査

【戸田遺跡】

福知山市戸田地先

当調査研究センター調査

戸田遺跡は由良川左岸の自然堤防上に立地する遺跡です。今回の調査では、12～13世紀の柱跡や溝、土坑など集落関係の遺構が見つかりました。

京都の松尾大社文書に、鎌倉時代から室町時代にかけて雀部庄の「富田」、「とた」とあるのが、この戸田集落と考えられ、雀部庄の一端を明らかにしたと言えるでしょう。



田畑関連遺構を調査しています

【室橋遺跡】

南丹市八木町室橋

当調査研究センター調査

室橋遺跡は亀岡盆地の北端にある古墳時代から平安時代にかけての集落遺跡です。平安時代後期（11世紀～12世紀）の溝が旧新庄用水の下層で見つかりました。新庄用水は、高雄神護寺の僧文覚が造ったと伝えられる灌漑用水ですが、伝承とほぼ同じ時期の平安時代後期から、ほぼ同じ位置で用水路が作り替えられてきたことがわかりました。



旧新庄用水の下層で見つかった平安時代後期の溝

【木津城跡】

木津川市大字木津小字片山

当調査研究センター調査

木津城跡は木津市街地の南東にある中世の山城で、2地点で調査を実施しました。それぞれの調査区で、最大幅約4.6m、深さ2m、断面V字形の堀と、最大幅4m、深さ2.5mの断面逆台形の堀を長さ20mにわたって検出しました。堀の形状から、防御のために造られた“堀切り”と考えられますが、いずれの堀の埋土からも遺物は出土しませんでした。



木津城跡の堀切り

主な展示品

瓦器は瓦質の器のことで、表面に炭素を付着させたものです。紅皿はべにをさすためのもので、石で作られています。新庄遺跡の輸入陶磁器は中国製品で青磁と呼ばれるものです。



日常雑器（福知山市戸田遺跡）
鎌倉時代（約800年前）



べにざら
紅皿（長岡京市右京第946次）
平安時代（約900年前）



輸入陶磁器（南丹市新庄遺跡）
鎌倉時代（約750年前）

企画展示：木津川市馬場南遺跡と周辺遺跡

遺跡の立地 馬場南遺跡は、京都府木津川市大字木津小字^{ぬかた}糠田に所在します。平城京の北約5kmのところであり、遺跡のすぐ北には全国からの物資を平城京に運ぶための港である「泉津」がありました。

調査地は丘陵に囲まれた小さな谷部にあり、谷部が平地に開口したところに^{ぶんまわり}文廻池があります。

検出遺構 調査により、丘陵裾で建物跡や柵跡・井戸、谷内で川跡・溝が検出できました。

掘立柱建物跡は3棟確認しました。うち、2棟は重複していたので、同時に2棟程度しか建てられていなかったようです。

川跡は幅4～5m、深さ1～2mで、掘立柱建物の廻りをL字形に囲んで流れています。川の下流には堤を^ひ設け、樋を設置し、水量の調節をしています。この川が埋没した後に、これとほぼ重複して、幅2m、深さ0.5mの人工的な溝が掘られています。この溝には、馬場南遺跡が廃絶する時期に多量の遺物を廃棄していました。

出土遺物 遺構の数はそれほど多くありませんが、遺物は種類も量も豊富です。特に、川跡や溝から多量の遺物が出土しています。

川には、計8,000点以上の灯明用の土師器皿が廃棄されていました。この土師器は法要などで灯された後、川の斜面に捨てられたものと思われます。

施釉陶器には、^{りよくゆう}緑釉陶器や^{さんさい}三彩陶器（奈良三彩）があります。これらは仏具と思われるもので、^{とうまり}塔椀蓋、^{こうろ}火舎型香炉や^{たく}托・^{じょうびょう}杯・蓋・小壺・浄瓶などがあります。また、水面を表現した水波紋や、水や山を表現した彩釉陶器の破片が約60点出土しました。彩釉陶器は仏像の足下を飾っていた造形物の可能性があります。



馬場南遺跡は木津川市木津の平野の南東部に位置します



馬場南遺跡は小さな谷間に立地しています

主な展示品

「神雄寺」と書かれた土器から神雄寺という寺があったことがわかります。「黄葉」と書いて「もみじ」と読みます。香炉の脚は獣足が表現されています。



「神雄寺」と書かれた墨書土器



「黄葉」と書かれた墨書土器



三彩火舎型香炉

墨書土器には、「黄葉」・「神」・「寺」・「神寺」・「神雄寺」・「神尾」・「大殿」・「造瓦」・「□利諸□」などの文字があります。

木簡は5点出土しました。この内1点には「阿支波支乃之多波毛美智^{もみぢ}」(以下欠損)の墨書があります。現存長23.4cm、幅2.4cm、厚さ1.2cmで、途中で欠損しています。「あきはぎのしたばもみち」と読めるので、これは『万葉集』巻10、2205番の歌「秋萩の下葉もみちぬあらたまの月の経ゆけば風をいたみかも」の上11文字に相当します。左側が割れており、字の残り具合から、元の幅は3cm程度あったものと推測されます。

瓦は、平城宮式の瓦が出土しました。不明製品として、材質がガラスと思われる細い管状製品が出土しています。

遺跡の評価 墨書土器の文字から、この周辺に「神雄(尾)寺」と呼ばれた寺院があったことはまず間違いありません。火舎型香炉や浄瓶が出土し、木津川市教委の調査では四天王の塑像片や^{そぞう}博^{せんぶつ}仏などの仏教関係の遺物が出土していることもそれを裏付けています。

「大殿」とは大きな建物という意味から転じて、そこに住まう天皇や大臣クラスの人物を指す語となります。「大殿」と書かれた土器が出土したことは、そういったクラスの人が、この遺跡に関わっていたことを窺わせます。また、平城宮を飾った瓦が出土していることも、朝廷内の有力者の関与を示唆しています。

万葉集の歌が記された木簡は何のために作られたのでしょうか。木簡を復原すると、長さ60cmを超える長大なものとなります。そのため、単に歌を記録するために製作されたのではなく、大勢の前で見せて、唱和するための「歌木簡」とも考えられます。「黄葉^{もみぢ}」と書かれた土器やL字に流れる川・溝跡は、歌会のための舞台装置であったのかも知れません。



神雄寺の中心的な建物の一つと考えられる掘立柱建物跡



建物の建てられた平坦面の廻りには川跡があります



建物を取り巻く流路内からは大量の灯明皿が出土しました

主な展示品

緑・黄・白色の上薬で彩られた陶器のことを三彩陶器と言います。奈良時代の高級な器です。水瓶は寺で使用された長頸の瓶で、仏前に水を供したり、儀式で用いたりします。



三彩水瓶



三彩蓋



三彩壺



山や水を立体的に表現した彩釉陶器



魚が描かれた彩釉陶器



大量に出土した灯明皿



数多くの墨書土器



平城宮式軒丸瓦



須恵器鼓胴



ガラス製の管。用途はわかりません



万葉歌木簡



漆の塗られた箱（蓋）

保存処理の関係で、実物を展示できないものもあります

第25回小さな展覧会 発行日 2009年8月14日

編集・発行 財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター 〒617-0002 向日市寺戸町南垣内40-3 TEL.075-933-3877 Fax.075-922-1189
ホームページアドレス <http://www.kyotofu-maibun.or.jp>